

「まんが王国とっとり」建国！

鳥取県知事 平井 伸治

1 ワン・オブ・ゼムからの脱皮

私は観光プロモーションで国内外へでかけることが多く、「ここの温泉は肌に良い」「西日本随一のスキーリゾート」等々鳥取県の売り込みをかけて回りますが、温泉にしても美味しい食べ物にしても、どの魅力も日本のどこかと同じですねと、ほろ苦い応対に出会います。メジャーな観光地でもなければ、頑張っても「ワン・オブ・ゼム」として扱われる辛さがあります。

しかし、海外ではクール・ジャパンの象徴はマンガやアニメのポップカルチャー。鳥取県は、「ゲゲゲの鬼太郎」の水木しげる先生、「遥かな町へ」の谷口ジロー先生、「名探偵コナン」の青山剛昌先生はじめ著名なマンガ家を輩出していることは、強い味方になります。妖怪たちのブロンズ像が139体も並ぶ水木しげるロードや、名探偵コナンなどの作品が展示されている青山剛昌ふるさと館の話を持ち出すと、相手が身を乗り出してくるので

す。

粘り強い誘致が実り、ちばてつや先生や里中満智子先生などのご理解を得て、世界のマンガ家約4百名が集う国際マンガサミットを本県米子市で今年11月に開催することが決まりました。また、水木しげるロードは、累計2千万人が訪れた観光地として全国有数のまちづくり成功例に数えられるようになりました。

それなら、発想を転換して「まんが王国とっとり」を建国してしまおう。他地域との差別化による国際リゾート化を目指す挑戦が始まったのです。マンガの味付けを加えることで、まずは大人も子どもも足を向けてもらい、温泉や街並みや砂丘等々の鳥取県の魅力に出会うきっかけになればと。

2 国際まんが博へ

国際マンガサミットを開催するのみならず、地域への波及効果を創出する仕掛けを考えなければなりません。そこで、「国際まんが博」を開催し、今年県内一円で様々なマンガ・アニメ関連のイベントを仕掛けることとしました。しかしながら正直なところ、この種のイベントは県庁組織が苦手な分野でした。これはどこの県庁でもそうですが、別にマンガの試験で職員採用しているわけでもありませんし、著作権など困難な課題が生じると「やらない」大義名分にしてしまう役所体質もあり、思うように進みません。この4月には「まんが王国官房」という組織を県庁に創設して、ようやく本格的にエンジンがかかった感があります。

国際まんが博は、8月4日から11月25日まで開催します。水木しげるロード、青山剛昌ふるさと館などでの特別イベントのほか、「とっとりまんがドリームワールド」という、出身まんが家を中心とし、ディズニーのキャラクターのステイッチも加わり、まんがの歴史、外国のまんがの紹介や、まんが図書館、まんがづくりの体験など、まんがのすべてを体験できるイベントなどが展開されます。

これを始めてみて、これまでとは違った若い人たちなどもマンガ王国に関わるようになってきていて、地域づくりの幅が広がる空気も出てきました。クリエイターを目指す筋ジストロフィーの男性も、ユニークなイラストキャラクターを創って応援を買って出してくれました。そういう皆さんの目の輝きには勇気づけられます。

3 地域のイノベーションを

地域はイノベーションを必要としています。マンガという従来の行政とは違う切り口で今年重点是に仕掛けてみて、これはいいという芽が出たものを今後育てていけばよいと考えます。

この熱気がビジネスや人材開発にも広がり始めました。若者にはクリエイティブな仕事を求める傾向がありますが、その受け皿が今まで地方にはありませんでした。米子市では山陰ビジネスコンテンツパーク協議会が発足し、拠点施設でコンテンツ関連の事業が動き始め、鳥取県も応援に回りました。地域主導の国際まんが博イベントを募集したところ、想定を大きく上回る応募があり、県の動きに呼応する波が広がっています。全国的な知名度アップのために、ソフトバンクのCMで「鳥取のハワイ」出身として知られるようになったトリンドル玲奈さんに、マンガ王国の「トットリンドル王女」に即位してもらい、PRに役買ってもらうことになりました。

多くの人共感できるソフト＝まんがから、鳥取県が一つステージを上げた地域に発展する可能性を追って、新たなプロジェクトが始動しました。